

ごあいさつ



公益社団法人 日本WHO協会
理事長 関 淳一

小生、去る6月13日に開催されました、社員総会・理事会において選任され、引き続き当協会の理事長に就任いたしました。今後とも変わらぬ御指導と御協力を何卒よろしくお願いいたします。

今年の夏は日本列島では7月に入り連日、猛暑日が続き同時に、局所的な集中豪雨があり、各地で被害がでております。各地の最高気温、雨量などでは、観測が始って以来の記録が報道されています。丁度この様な中、8月27日からスイス・ジュネーブのWHO本部で3日間に亘り気候変動と健康についての専門家会議（WHO Global Conference on Climate Change and Health）が開催されます。気象や気候の変化は、人の健康に直接的、間接的に色々な影響を与えます。直接的には、様々な要素を通じて起きる生理的変化を介して、生体に影響を及ぼしますし、間接的には災害などにより人の生命をも奪います。いずれにしろ、今回の会議での議論に注目したいと思います。

去る7月5日、6日の両日群馬県前橋市において、群馬大学WHO協力センター指定記念シンポジウムと祝賀会が開催されました。これは群馬大学大学院保健学研究科が2008年以来Interprofessional Education（多職種連携教育：IPE）に取り組んでいる日本の11大学ネットワークのコーディネーター大学として取り組んできた実績により、昨年7月にWHOの協力センター（Collaborating Center：CC）に指定されたことを記念して開催されたものです。

高度専門化の進む、保健・医療の現場では、多

くの職種の人達が各々国家資格の認定を受けて、仕事に携っております。その様な現場で、各職種の人達が各々自分の職種の専門性を維持し、独立しつつ、同時に他の様々な職種に対する十分な理解を持ち、良いチームワークのもと、日常の業務に取り組むことは、特に高齢社会が急速に進展する中で極めて重要であると思います。

この様な意味から、私はIPEに対して、非常に大きな期待をもっております。このシンポジウムには、私もお招きいただき出席させていただきましたが、非常に充実した二日間でした。今回、群馬大学多職種連携教育研究センター長の渡邊秀臣教授に今後の取り組み等について御寄稿いただきました。

去る6月13日に、2014年の世界保健デーのテーマ「節足動物が媒介する感染症から身を守ろう」をテーマとしたセミナーを開催し、大阪市立大学教授、カロリンスカ研究所教授 金子明先生と大阪市立総合医療センター感染症センター部長 後藤哲志先生に御講演いただきました。今回、その時の御講演の内容を文章化して頂き、掲載いたしました。御二人の先生に改めて御礼申し上げます。

又、今回、大日本除虫菊中央研究所の杉岡弘基様に節足動物媒介感染症から身を守る方法等について分かり易く解説していただきました。

非常にお忙しい中、当協会の機関誌「目で見るとWHO」のためにお時間をお取りいただきました皆様に重ねてお礼申し上げます。

平成26年 夏